



平成 22 年 7 月 2 日

さ く し ん

下氷鉦小学校

(校長室だより 2 3)

校長 大内 徹

梅雨時のむし暑さが続いておりますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。早いもので7月に入り、夏休みまでの日数も残り3週間あまりとなりました。校長室にいと体育館脇の花壇に咲いている美しい紫陽花の花が目に入ってきます。

さて、6月17日は本校にとっても私にとっても記念すべき日となりました。既に皆さんにご案内のように、本校中庭の水路にホタルが舞い始めました。雨の降った翌日のことでした。晩の7時半頃、私が渡り廊下近くで水路を覗いてみると、一つの小さな淡い黄色の光に目が止まりました。「ひょっとして、ホタル...?」と水辺にそおと顔を近づけてみると、強弱のある一定のリズムで光を発していました。それがホタルであることをこの目で確かめるや否や、職員室の教頭先生にも声をかけ、二人で水路一帯を確認しました。「一匹だけかな」と、周囲に目を凝らすともう一匹、二匹と黄色い光が動いているのに気づきました。「職員室前の水路はどうだろう...」と、そちらに行ってみると、また一匹を見つけました。まだ外の明るさが残っているせいか、舎内の明かりのせいか、闇の中にホタルを見つけにくく、職員室や廊下の照明を落としてみました。「その途端に」と言えば大げさではありますが、暗闇の中に一つ、二つ、「ああ！ここにも！」「あそこにも！」と、その数は次第に増え、その夜は十匹以上にはなったと思います。照明を嫌うホタルは、たとえわずかでも、明かりに反応して、水辺や草の陰に潜んでいたのかもしれませんが。舎内の照明を消した途端にホタルの動きが活発になったのには驚かされました。

家庭や地域の皆様方にホタルが舞ったことをお知らせすると、多くの方が中庭のホタルを見に来て下さっております。「何十年ぶりかなあ」「小さい頃この辺りはたくさんのホタルが舞っていたものだよ」と、懐かしそうに昔を振りかえる方も少なくありません。かく言う私もその一人であります。まだホタルの数は少なく、またホタルの光そのものは小さいのですが、そのやわらかな光で私たちの心を照らして癒してくれていることに大きな喜びを感じております。このホタルの郷再生事業が始まったのはつい昨年のことですので、僅かながらでもホタルが舞ったこと自体が驚異です。何事にも最初の時があります。最初の一步を大切に、息の長い継続的な活動として取り組んでいくことが大切になってきます。ホタルの幼虫を分けて下さった方で、戸隠祖山にお住まいの羽田様からは、大麦の藁で編んだ蛸かごや採卵器（手作り）などもいただきました。私も長野ホタルの会に入会したご縁で、様々な方々からこのようにご協力や支援をいただいております。私も下氷鉦小のホタル水路に深く長くはまってしまいそうであります。

28日朝の校長講話でも水路のホタルについて子ども達に話しました。（講話前半部概略）

みなさん、初めて、ホタルの幼虫を目にした時は、どんなふうに思いましたか。どんなふうに見えましたか。ゲジゲジみたいで気持ち悪い...? そうだね。校長先生も最初に見た時は、何だか気持ち悪いなあ、触りたくないなとも思いました。でも先々週の木曜日に、ふと中庭に校長先生が出てみると、気持ち悪いはずのホタルの幼虫が成長・変身して、ほのぼのと明るく黄色い光を放ちながら、数は少ないながら、舞っておりました。みなさんの中には、手でつかまえて、どんな形や姿

をしているのかを、確かめようとしている人もおりました。きれいでしたね。四月、最初にみた幼虫が今ではとっても可愛らしい光を放ちながら、私たちの心を和ませながら、舞ってくれています。校長先生はそういうホタルさんから勉強し、学んだことがあります。それはね。「最初はちょっといやだなあ。苦手だなあ」と思っていたものでも、それだけじゃ終わらないのです。ちょっといやだなあ、と思っていたものでもね、こんなにいいところがあるじゃない。私達の心をほのぼのとさせ癒しながら優しい光を放っているホタルは素晴らしいな、はじめは気持ち悪いなんて言われながらも、最後にはきれいだな、いいなあと言われるホタルさんってすごいなあって思うのです。気持ち悪いなんて思った自分は、罰があたりそうです。ホタルさんに申し訳ないって思うのです。みなさんは、どう感じたでしょうか。(後半部省略)

ホタルの郷再生事業は本校の特色の一つになっていくものと期待しておりますが、作新相撲場の活用も下氷鉋小学校の特色の一つでもあります。さる 6 月 20 日(日)には、長野県小学生相撲選手権大会が南長野運動公園相撲場でありました。全体で 260 名余の参加者の内、本校参加者は 52 名で、今回も最多でありました。本校からは、1 年生が 14 名、2 年生が 9 名、3 年生が 20 名、4 年生が 9 名参加しております。飯田、木曽、塩尻等のスポーツ少年団や相撲クラブが参加した中でも、本校の子ども達の健闘が光っていました。我が子の活躍を見るため応援にかけつけて下さった家庭の皆様のお陰かと感謝申し上げます。二学期には、昨年はインフルエンザのために中止となった秋の大会もあります。秋の大会にも、また多くの子ども達が参加して、南運動公園の相撲場の下氷鉋小の熱気や声援に満ちた空間が生まれるといいなあと願っております。相撲は勝負ですから、負ければ悔しく、涙を浮かべる子もいます。勝つことも大事ですが、負けて悔しい思いをすることも、人の様々な思いを汲み取ったり、次に備えて頑張ったりするための大事な学びの場です。子ども達には様々な学びの場を経験させてあげることができれば幸いです。

先月 14 ~ 16 日には、5 年生が飯綱登山、飯ごう炊さん、森林体験等を行ってきました。前日からの天気予報でも当日は雨ということでした。宿舎到着時も小雨が降っており、カッパを着せての登山となりました。雨天での強行をするつもりもなく、ただ、山登りというものを少しでも体験させてやりたいという願いから、途中引き返してくることも想定して歩き始めました。一の鳥居をくぐる時、私は「雨が止んでくれますように」と戸隠の神に祈りました。困った時の神頼みです。幸い登山道もそれほどぬかっておらず、歩ける状態でありました。15 分、20 分くらいでしょうか、しばらく登っていくと、先ほどまで降っていた小雨もすっかり上がってきました。空の明るさ等から行けそうだと判断して、頂上を目指しました。飯綱山の標高は、語呂合わせで 1917 年で 1 ヒ・9 ク・1 イ・7 ナと覚えるとのこと。それほど高い山ではありませんが、初めて登山を経験する子ども達にとっては、きつい岩場もあり登り甲斐のある山であったかもしれません。しかし、体調を考慮して麓で待機していた 2 名のお子さんを除いて全員が頂上を極め、無事下山できたことは素晴らしいことでした。下山途中、ある男児が全体からは遅れ気味のペースながら、肩を寄せ合い手をつなぎ、互いをかばい支えながら歩いていた光景が微笑ましく思い出されます。「山はもう登りたくない」という思いの子どももいるかもしれません。しかし、山にはそのような苦しい思いを忘れさせ、「また登ってみたいな」という気持ちにさせる魅力があるのかもしれません。本校の学校目標の一つ、「最後までやりぬく子」(忍耐)の具現に迫る大切な学習活動であると考えています。

今月の 8 ~ 9 日にかけて 6 年生の海の学習が予定されております。当日好天に恵まれて、しっかりと佐渡での学習ができればいいなあと祈っております。